



2021 日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

カワサキ Z1/Z2

MODEL
Z1

KAWASAKI 900 super4 (Z1)/KAWASAKI 750-RS (Z2)



米国で1972年に発表されたカワサキ900スーパー4(Z1)は、同年11月から販売が開始された。価格は1900ドルで欧州市場も含めた当初の計画台数は1500台。

カワサキZ1(1972年)主要諸元

全長	2205mm	型式	Z1
全幅	800mm	エンジン型式	Z1E
全高	1150mm	駆動方式	チェーン
ホイールベース	1490mm	エンジン	4サイクル、空冷DOHC、4気筒
最低地上高	160mm	ボア×ストローク	66×66mm
		総排気量	903cc
車両重量	230kg (米国式)	圧縮比	8.5
乗車定員	2名	最高出力	82hp/8500rpm
最高速度	200kph	最大トルク	7.5kg.m/7000rpm
最小回転半径	2.5m (Z2)		
登坂能力	30°	変速機	常時噛合式前進5段
タイヤサイズ前	3.25-19インチ	価格	1900ドル
タイヤサイズ後	4.00-18インチ		



Z1の国内向けモデルとして開発され、1973年にデビューしたカワサキ750-RS(Z2)は、最高出力69馬力を誇った。



最高出力82馬力を誇る高性能なZ1Eエンジンは、性能のみならず、整備性の良さも高く評価された。

■Z1/Z2の開発

川崎重工業が手がけた、新たな大型モデルの開発目標は、性能、スタイル、装備、あらゆる点で世界最高の「ZAPPER(ザッパー)」をつくりあげることになり、高評価を得ていたCB750FOURといかに“差別化”することも重要な要素だった。「ZAPPER」は、「軽量で、パワフル、操縦性に優れた車」とされ、今の言葉でいえば「スーパースポーツ」にあたる。こうした目標のもとに開発されたカワサキ900スーパー4・モデルZ1(以下Z1)は、従来の日本車とは異なり、操縦安定性に関しても、完成度を上げるために最大限の努力が払われた。この“差別化”を実行したZ1の成功が、今にいたるカワサキの企業風土を培ったといえる。

Z1の開発に深く関わった濱脇洋二氏と大槻幸雄氏は以下のように語っている。

「Z1が非常に人気を博した最大の理由の一つは、開発にあたり顧客の要望を熟知していたアメリカ人と、彼らの意見を謙虚に採用した日本人技術陣との素晴らしい合作であったことである。Z1の試作テストに、米国人が日本人のテストライダーと共に試乗テストをして、性能、操縦性などに多くの助言をした。特にアメリカ人ライダーからは、性能のみならずメンテナンス性でも今までの常識を一新すべきと要請されたが、この面でもZ1は高い評価を得ることができた」

1972年の年初から米国での現地テストを行ない、1972年の8月に量産にこぎつけたZ1は、最高出力82hp/



1970年に完成したZ1のテスト用試作モデルのT-103。この試作モデルは900ccクラスのエンジンを搭載し、テストコースでは230km/hで走行可能なことが実証された。

8500rpm、最高速200km/h、0～400m加速12秒で、当時としてはトップレベルの性能であった。さらに快適性、操縦安定性も高く評価され、耐久レース、ドラッグレース等でも常勝マシンとなった。国内向けには、行政指導を受けた自主規制という形で750cc以下に排気量を落としたが、単なるボアダウンではなく、750ccに相応しいボア×ストロークに変更し、カワサキ750-RS(以下Z2)として、1973年3月に発売。750cc版のZ2とあわせ3年間で約8万8千台を生産・販売し、Z1/Z2系の累計生産台数では34万台を超える空前のヒットモデルとなった。

■引き継がれてゆくZの遺伝子

Z1/Z2の後継車であり、当初から「ZAPPER」として開発されたGPZ900Rは、GPZ1000RX、ZX-10、ZZR1100/1200へと発展した。そしてZ1/Z2の遺伝子は、ZEPHYR(ゼファー)シリーズにも受け継がれた。ZEPHYRシリーズは、“ネイキッドブーム”の立役者となったが、2000年代にZEPHYRが大ヒットしたのも、Z1/Z2のイメージを意識的に活用した商品戦略、販売戦略が功を奏したともいえる。さらに2018年モデルとしてZ900RSが発売された。本機種もZ1/Z2のデザインを継承しており、日本の大型二輪市場において3年連続トップセラーを続ける大ヒットモデルとなっているのである。

(日本自動車殿堂 研究・選考会議)

協力：カワサキモータース株式会社 代表取締役 社長 伊藤 浩